

## 第5章 重点プロジェクト

### 1 重点プロジェクトの位置づけ

第4次大淀町総合計画は、「来たい、住みたい、住み続けたいまち 大淀町 ～次世代へつなぐ共創のまちづくりをめざして～」を基本理念・将来像に掲げています。この本町のあるべき将来の姿に向けてまちづくりを進める上で、前期基本計画の期間である今後5年間は、10年後、20年後、30年後の本町の行方を左右するほどの重要な期間として位置づけ、最も重要な課題のひとつである人口減少対策を強力に推進していく必要があります。

このため、人口減少対策に向けて重点的に取り組んでいくリーディング施策を「重点プロジェクト」として位置づけ、その方策や進捗管理の手法を明確にし、住民や関係機関と情報を“共有”し、“共感”する仲間をつくり、“協働”で取り組んでいくこととします。

### 2 重点プロジェクトのテーマ

本計画でも冒頭に掲載しているように、本町では地方創生総合戦略を策定し、人口減少対策に向けた網羅的な計画を策定しています。この地方創生総合戦略を推進することを基本として、魅力あるまちづくりを推進するために、以下の視点のいずれか、または複数に該当する重点プロジェクトを選出し、着実な事業の実施に努めることとします。

#### 重点プロジェクト選定の視点

- ①比較的事業規模が大きい
- ②事業を実施する上で関係者との連携や協力する度合いが大きい
- ③新規性が高い
- ④事業を実施することで大きな効果が見込まれる
- ⑤知恵やアイデアを結集して行わなければ事業が実施できない

なお、重点プロジェクトは、前期基本計画に掲げられている主要施策であることを基本とするため、重複掲載となりますが、重点プロジェクトであるという位置づけを明確にすることを目的としています。

## 重点プロジェクト

【1】子育て支援・少子化対策プロジェクト

【2】下市口駅周辺まちづくりプロジェクト

【3】農商工連携プロジェクト

【4】魅力再発見プロジェクト

### 3 重点プロジェクト

#### 【1】子育て支援・少子化対策プロジェクト

##### 《事業の目的》

全国的に子どもの数が減少傾向にある中、子ども・子育て関連3法が平成24年8月成立したことをふまえ、本町では「大淀町子ども・子育て支援事業計画」を策定しました（平成27年3月）。この計画では、「未来に向けて、安心して子どもを生み、すこやかに育てるまちづくり」を基本理念として掲げ、子育て世代が住みやすいまちづくりを進めています。

本町においても今後数十年間、人口減少が続くものと予測されていますが、子どもの数が減るからサービスの量を減らすのではなく、子どもを持つ親が働きやすい環境を整備することや、子どもの可能性を広げる教育を支援すること、安全な場所で思いっきり遊べる場所を増やすこと、子育てにお金がかかりすぎる現状を解決するために皆で知恵を出しあうこと等、子育て支援に積極的に取り組むことが必要です。

人口減少を少しでも食い止めるため、若者が希望を持ち、未来に向けて安心して子どもを生みすこやかに育てることができる夢のあるまちづくりをめざします。

##### 《期待する効果》

- ▶人口減少と高齢化率上昇の歯止め
- ▶年少人口、生産年齢人口の増加によるまちの活性化
- ▶町全体で子育てを応援するまちづくりの推進

##### 《プロジェクト概要》

###### ●子ども・子育て支援事業計画の推進

「大淀町子ども・子育て支援事業計画」では、8つの基本的視点のもと、6つの目標を立て、166の事業を実施しています。これらの事業を着実に実施することはもとより、横の連携や関係機関との連携をさらに改善し、子育てのサポートに熱心に取り組み、「子育てしやすいまち」、「子育てが楽しいまち」が実感できるまちづくりを進めます。

###### ●現場重視の課題把握

子育て世代のニーズを的確に把握し、政策に反映させるため、保護者、地域住民、学校・幼稚園・保育所（園）・認定こども園、関係機関等、現場の声を直接聞く機会を今まで以上につくり、関係者が一体となって、子どもたちを育てる環境づくりに反映していくよう努めます。

###### ●相談しやすい環境整備

子育ての経済的不安、子育て支援のあり方等々、子どもや孫に関わる課題は当人にとっては切実な悩みです。しかし、相談しにくかったり、相談する相手がいなかったり、その悩みは日に日に増大していく可能性があります。保護者の子育てに対する不安や悩みを解消できるよう、

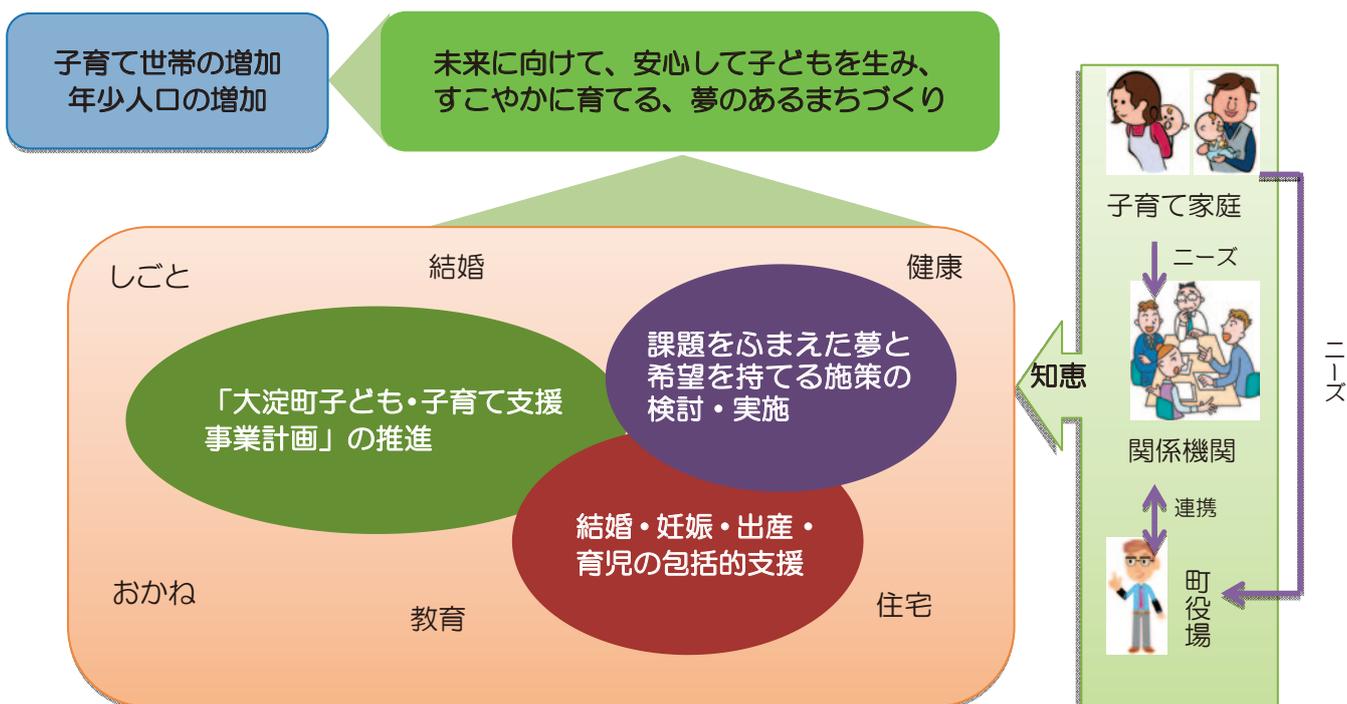
子育てに関する情報や親子で交流できる機会を積極的に提供し、関係各機関の相談機能や交流活動の充実を図り、利用しやすい相談体制づくりと周知を図ります。

●結婚・妊娠・出産・育児の包括的支援構築

若い世代に対し、結婚や妊娠に対して夢と希望を持つことができるように様々な機会を利用して啓発や支援を行っていきます。また、妊婦や乳幼児が本町で安心して暮らせるように妊娠・出産・育児の切れ目のない支援に努めます。

《プロジェクトスケジュール》

年度	スケジュール（取り組み内容）		
平成29		現状把握・分析	●検討会議の設置
平成30	子育て世代包括支援センター準備期間	夢と希望を持てる施策の検討と実施	幼稚園・保育所（園）・認定こども園のあり方検討
平成31			
平成32			
平成33	スタート		



## 【2】下市口駅周辺まちづくりプロジェクト

### 《事業の目的》

近鉄下市口駅周辺は、本計画においても中心市街地ゾーンの中に位置づけられており、下淵商店街を中心に、長きにわたり大淀町における商業の中心として町の発展に寄与してきた場所です。しかしながら、近年の少子高齢化や人口減少をはじめとする社会構造の変化に伴い、下淵商店街では空き店舗が目立ち、往時の活気が失われている状況にあるほか、平成28年3月をもって大淀病院が閉院したことから、まちの中心エリアの空洞化が懸念されており、病院跡地の活用についても検討し整備を図っていく必要があります。また、駅前周辺は、まちの中心であるだけでなく、県南部地域への連絡拠点でもありながら、広場や道路が狭く交通安全対策や賑わいづくりが課題となっています。

こうした課題に対応し、「大淀病院跡地及び近鉄下市口駅周辺地区」として、本町及び県南部地域の玄関口にふさわしい地区の形成をめざし、本町の活性化はもとより、県南部地域の活性化へと波及されるまちづくりを進めるため、平成28年に締結した奈良県との「まちづくり連携協定<sup>(\*)</sup>」に基づき、まちづくりを進めます。

### 《期待する効果》

- ▶医療、福祉、健康に関する機能の増進
- ▶地域住民の交流によるコミュニティ機能維持
- ▶下市口駅周辺の交通安全及び利便性の向上
- ▶観光拠点としての魅力の向上
- ▶空き店舗、空家等の利活用による活性化
- ▶町外からの交流人口の増加

### 《プロジェクト概要》

#### ●医療・福祉・健康機能の集約

コンパクトシティ<sup>(\*)</sup>の考え方を取り入れ、大淀病院跡地を中心に、町保健センターをはじめとする医療・福祉・健康に関する機能を集約することで、子どもから高齢者まで幅広い世代の健康づくりに関する機能を充実させるとともに、多くの住民が集い、活用、交流できる場とすることで、住民にとって“この場所に来れば誰かと交流できる”町のシンボリックな場所となることをめざします。

#### ●観光拠点の形成

また、県南部地域の観光拠点となることをめざして、吉野川をはじめとする地域資源の活用や、町外からの誘客・交流人口の増加を見込める集客施設の整備等を検討し、周辺の観光地へ向かう観光客が本町で一時的に滞在する仕組みづくりを行います。

● 下市口駅周辺の整備

下市口駅周辺については、駅前広場やロータリー機能の整備など、県南部地域の玄関口としてふさわしい駅周辺の整備と、病院跡地へのアクセス強化などを進めます。その他、下湊商店街における空き店舗や空き家等を活用したまちづくり活動への支援など、ソフト事業を含めた地区内での様々な取り組みを並行して進めることで、まち全体の活性化につなげます。

● 関係機関との緊密な連携・協働体制による推進

プロジェクトの推進に係る計画等の検討にあたっては、奈良県との連携協定に基づく検討体制を通して、住民や各関係機関の意見を取り入れながら進めます。また、事業実施についても、奈良県をはじめとする各関係機関との適切な役割分担のもとに進めるほか、民間活力の活用も視野に入れるなど、住民、各種団体、企業など様々な主体と行政が連携・協働を図り、まちづくりを進めます。

《プロジェクトスケジュール》

年度	スケジュール（取り組み内容）	
平成29	まちづくり基本計画策定（導入機能・実施主体等の検討）	
平成30	事業ごとの個別計画の策定	ソフト的施策展開
平成31	施設整備等にかかる詳細設計	↓
平成32	施設整備	
平成33		



●奈良県との連携協定に基づくまちづくりのイメージ

平成 28 年 2 月 奈良県と大淀町のまちづくり連携協定 締結

(奈良県、各関係機関、住民、企業等との連携によりまちづくりを推進)

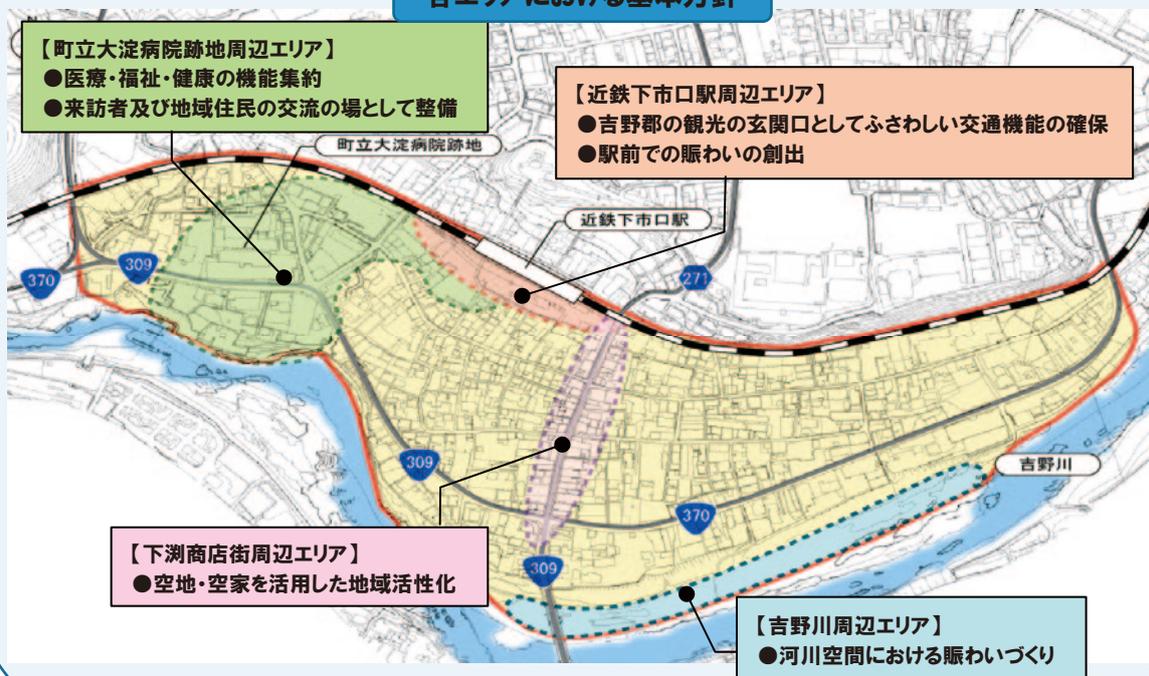


まちづくりのコンセプト

- 医療・福祉・健康に関する機能の促進と多世代交流づくり
- 地域資源を活かした観光と交流の「拠点」づくり



各エリアにおける基本方針



大淀町及び県南部地域の玄関口にふさわしい地区の形成



大淀町全体の活性化



県南部地域の活性化

## 【3】農商工連携プロジェクト

### 《事業の目的》

地方創生を旗印に、地方の重要性があらためて見直される時代になっています。また、近年、「一億総活躍」や「働き方改革」など、働くことの価値やスタイルがこれまでの概念と大きく変化しようとしています。

本町においても、梨や茶をはじめとする農作物は、観光や地域を売り出す加工品として活用されるなど、様々な連携によって付加価値が高まりつつあります。こうした一次産品を活用したお菓子や食べ物、お土産物等が開発・販売されるなど、地元の資源を活用し、対外的に広く発信していく農業と商工業の連携した取り組みが住民主体となって行われるようになってきました。

しかしながら、農地の担い手不足により耕作放棄地は増加の一途をたどり、新たな商工業者がいない中心市街地である下市口駅前商店街はシャッターストリートと化していることから、今までと違う角度から取り組みを行う必要があります。

農業などの一次産業は、後継者不足が深刻化していることもあり、「儲かる」魅力ある仕事にしていくことが重要です。そのためには営農体制の改革を図り、持続可能な農業を実現しなければなりません。また商工業においては、既存事業所の事業継続はもとより、本町で新たに創業してもらえるような仕組みづくりも必要です。

まず、魅力あるまちの農作物を地元での消費を促す地産地消の取り組みを進めるとともに、町外の人にも地元の良さを多くの人に知ってもらい、結果として地元で誇りの持てる住民が多くなるきっかけにも成り得る手段のひとつとして、農商工連携を積極的に支援していきます。

さらに農業と商工業の連携を加速化させ、販路開拓を促進し、若者も働くことができる場としての魅力を向上させ、町が経済的自立、活性化することを目的とします。

### 《期待する効果》

- ▶ 農業の担い手確保と若者の働く場の増大
- ▶ 荒廃農地の再生
- ▶ 農商工連携イベントの開催による交流機会の増加
- ▶ 特産物の販路拡大、地域ブランド開発
- ▶ 道の駅の魅力向上

### 《プロジェクト概要》

#### ● 農業基本計画の推進

大淀町農業基本計画の基本理念である「～次世代に繋げる持続可能な農業の確立～」を実現するため、「楽しくみんなで食と農のまちづくり」、「新しい視点による農商工の連携取組」、「おいしいをテーマにした農業と観光の融合」の3つの戦略を推進します。

#### ● 【戦略1】楽しくみんなで食と農のまちづくりの推進

先駆的に町内で行っているグループでの営農取組をモデルに、既存農家、就農希望者、地域住民、さらには都市部住民も巻き込んだ「楽しい」農業を標榜し、実践していきます。そこでは、既存の枠にとらわれない農業への携わり方を模索するために、人づくり、地域づくり、ネットワークづくりを進めます。

●【戦略2】新しい視点による農商工の連携取組

農商工の連携イベントを実施し、販売促進を行うことにより、商工業にも効果が波及する仕掛けづくりを行います。販路拡大支援として物産展への出店、農作物をつかった地域ブランド商品（6次産業加工品）の開発を積極的に進めます。

また、新たな創業者を生み出す創業支援の取り組みを行うとともに、商工業のみにとらわれず、新規就農者を支援する仕組みにも拡張し、行政、金融機関と連携しての支援を図ります。

●【戦略3】おいしいをテーマにした農業と観光の融合

本町の農産品の良さを広く知ってもらうためには、生産するだけでなくPRや情報発信が必要です。実際に足を運んでもらい、見て、食して、体験してもらうことにより、本町の農産品のファンに、ひいては本町のファンになってもらうために、道の駅・吉野路大淀iセンターを生産者、地域住民、観光客との交流・情報発信拠点と位置づけ、安全・安心で新鮮な農産物の販売、イベントの開催、農業体験等を実施します。また、体験農園やオーベルジュ<sup>(\*)</sup>の設置により、新規就農希望者や都市部住民にも本町へ足を運んでもらえるような仕掛けづくりに取り組みます。



《プロジェクトスケジュール》

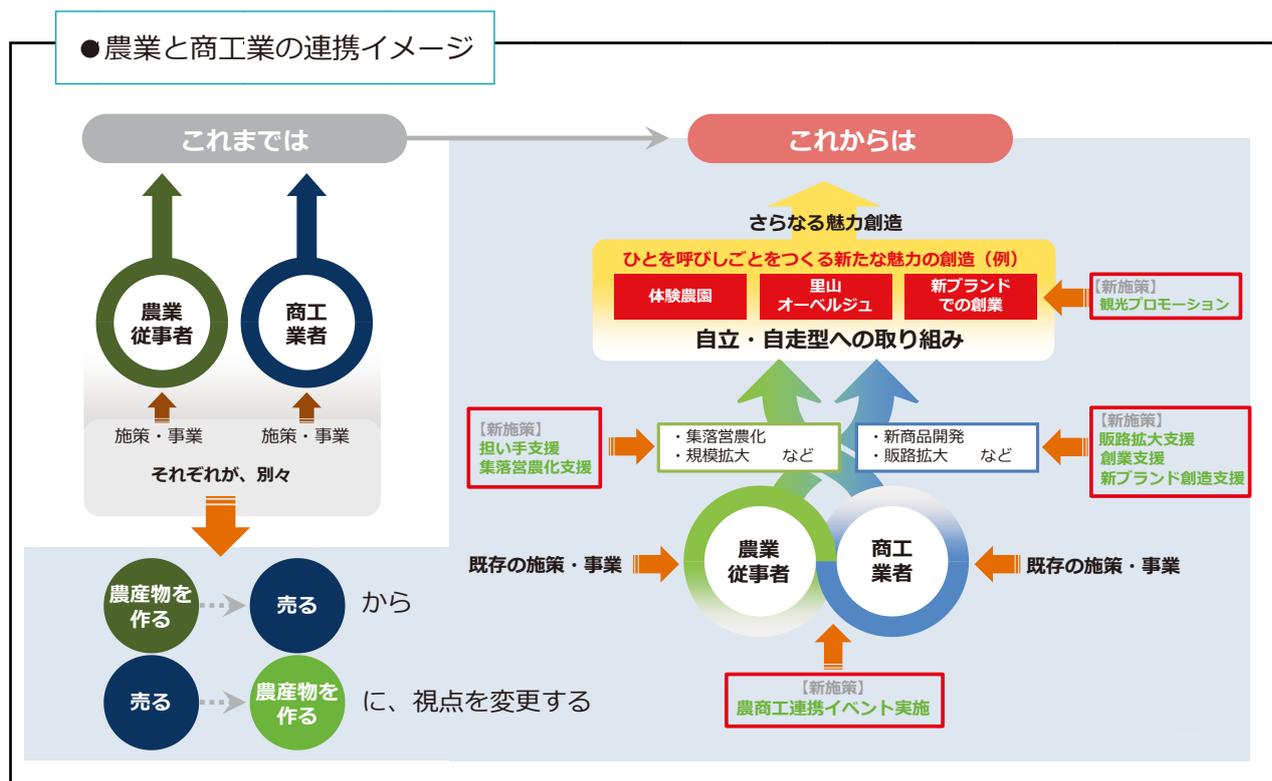
年度	スケジュール（取り組み内容）
平成27	・農商工連携イベントの開催
平成28	・創業支援の実施 ・集落営農組織設置支援 ・販路拡大支援の実施 ・道の駅の機能強化
平成29	・地域ブランド創造の推進 ・担い手確保の推進 ・農業体験セミナーの開催  開設準備
平成30	・地域農園、体験農園の設置
平成31	・里山オーベルジュの開設
平成32	
平成33	

序論

第1部 基本構想

第2部 前期基本計画

資料編



## 【4】魅力再発見プロジェクト

### 《事業の目的》

本町には、能楽（能・狂言）、古墳などの歴史遺産や信仰、文学、特産品、農山村の趣き、自然などの立地特性、生活しやすい環境、話題となる元気な店舗・企業・人など、有形無形を問わず多くの魅力や地域の財産が数多くあります。しかし、未だ多くに知られていないもの、住んだ人や触れて体験した人でないとわからないことも多くあり、こうした地域資源をさらに活用するために、まちの魅力として醸成し、整理した上で、それらの情報を戦略的かつ効果的に発信していく取り組みが必要です。

地域資源の発掘や磨き上げ、訪れたいくなる仕掛けづくりを行い、本町の魅力住民とともに再発見し醸成・発信することにより、先人たちが築いてきた歴史ある町をさらに魅力あるものにして次世代に伝えるとともに、移住・定住や交流の促進に繋げることを目的とします。

### 《期待する効果》

- ▶大淀町の知名度の向上と移住希望者の増加
- ▶交流人口の増加
- ▶郷土への愛着や誇りの醸成
- ▶まちの魅力情報の町内外への発信
- ▶各種イベントの充実

### 《プロジェクト概要》

#### ●町の魅力の掘り起こし

地域資源を活用し、また、後世に伝えていくためにも、さらに地域資源を掘り起こすとともに、一つひとつにスポットを当て磨き上げ、町としての魅力につなげていく事業を住民参画も図りながら推進し、誇れるまちづくりに取り組みます。

#### ●郷土愛の醸成

様々な地域資源を活用し、将来を担う子どもたちに多様な学習活動を通じて郷土について学ぶ機会を増やすとともに、生涯を通じた地域ぐるみでの文化継承などに取り組み、町民の郷土への愛着と誇りを育みます。

#### ●町制100周年記念事業

大正10年の町制施行から、平成32年度には町制100周年を迎えることとなります。先人たちが築いてきた本町を次の世代に継承していくため、これまでのまちの発展過程を学ぶ機会にするとともに、次の100年の発展に向けた大きな転換点と捉え、単なるイベントや式典だけでなく、未来志向の町制100周年記念を行い、夢と誇りの持てるまちづくりにつなげます。

#### ●情報発信の強化

より多くの人に大淀町を知ってもらい、まちの魅力を伝えるために、情報発信力の強化を推進

します。魅力情報の発信にかかる戦略や仕組みを構築し、既存の広報紙やホームページ、町自主放送だけでなく、SNS<sup>(\*)</sup>などの拡散効果を活用した情報発信や、口コミといったマンパワーを活用した情報発信を行います。あわせて、イベントや観光・移住体験ツアーの開催など、町を訪れ触れてもらう機会を増やし、積極的に情報発信を行い本町の魅力情報を多くの人に届けます。

### 《プロジェクトスケジュール》

年度	スケジュール（取り組み内容）	
平成28	おおよど遺産制度 <sup>(*)</sup> の創設 遺産選定	
平成29	遺産選定	郷土愛育成プログラムの検討 100周年プロジェクトの立ち上げ 情報発信の戦略と仕組みづくり
平成30	遺産選定	準備や機運の醸成 積極的な魅力発信
平成31	遺産選定	実施
平成32	遺産選定	100周年記念行事や関連イベントの実施
平成33	保存と活用	

注：平成28年度から平成32年度まで「遺産選定」の取り組みが継続的に実施され、目標選定数100を目指します。平成30年度以降は「積極的な魅力発信」が重点となります。

